



第116号
島根県立
出雲工業高等学校
進路指導部
印刷 (南西村印刷)

ネガティブ思考も役に立つ

校長 佐々木 雅典

令和四年度も七月一日より求人票受付となり、本格的に就職活動の時期となりました。並行して、進学校合格に向けて進学活動も始まっています。三年生にとって、人生の中で何回目かの、大きな選択・決断をする「時」となっています。一人一人が自分と向き合い、家族とそして学校と共に進路決定に向けて妥協なく取り組んでもらいたいと思っています。

私たち教職員も全力でサポートしていきます。さて、私は時としてネガティブ思考で目の前の事に取り組み、進んでいくことがあります。学校運営において、ある対応をしなければいけないことが起きた場合、最悪の事態を想定し、その時のために準備・対応を考え実行する。例えば、台風が近づいてきている状態であれば、出雲を直撃し、風雨共に強く、登校困難が考えられる時やここ数年であれば、コロナウイルス感染症の拡大を想定した学校活動の予防策の徹底です。様々なことにネガティブ思考が役に立っています。なぜこんなことを言うかというと、進路決定にお

いても、このネガティブ思考が大切だと思うからです。まず、受験先を決める「時」、様々な不安要素を持つと思えます。それだからこそ、会社のことを調べ、求人票での労働条件等を調べ、他社と比較し、選択決定へ少しでも不安を取り除いた状態で進んでいくのです。

次に受験対策です。楽観視せず、受験内容をしっかり確認し、受験までの期間、弛まぬ努力(志望理由を力強いものとした履歴書き・受験科目に対する勉強・面接のレベルアップなど)を積んで、受験に対する不安を少しでも取り除いて受験に臨むのです。しかし、最後までネガティブ思考ではダメです。受験に向けて努力する過程ではネガティブ思考を持ちながら、やれる限りのことを見つけ努力しますが、その後は「ここまでやったのだから」という自信を持ち(ポジティブ思考)、受験に臨む必要があります。ネガティブだけでもポジティブだけの思考でも、進路決定は難しいのです。ポジティブ思考を生むための、ネガティブ思考を踏まえた努力が合わさって、進路決定への道に近づいていくと思います。

進路活動は一人で成し遂げることはできません。ご家族の理解と協力、先生方や先輩方からのアドバイス、クラスメートみんなのクラス全員進路決定へ向けての思いやり、いろんな要素がみんなの力になります。みんなで頑張ってくださいませ。

三年生の皆さん全員が、決断した「道」を進んでいけるよう願っています。

情報を収集し

進路選択を

進路指導部長 大森直人

二年前からのコロナ禍は、一時期落ち着きを見せましたが、七月に入り急拡大しています。六月から大卒者の就職選考が開始し、新聞等によると従来のオンライン受験から対面による面接となつて不安に感じている大学生のことが書いてありました。高卒の面接は昨年度も対面が多く、今年度と変化がありません。その点では、今までどおりの対策を行い就職や進学への選考に臨んでもらいたいと思います。

一 進路決定に向けて

今年度当初はコロナ禍の中で徐々に交流が緩和され、企業説明会や三年生の県内企業見学は各方面の協力のもと実施することができました。三年生を始め、生徒の皆さんにとっては、将来の就業のために勤労観・職業観を養い、コミュニケーションの大切さを感じ、新たな自分を発見する場になったと思います。

さて、本年度も七月一日から求人受付となりました。昨年度はコロナによる

一部の業種の雇い控えがあり、今年度はその反動から求人数の増加が見込まれます。就職希望者はその中から企業を選定することになります。六月中に多くの企業の方と直接面談や電話での連絡をし、今年度も多くの求人があることを確認しました。

進学では、大学・短大において学校推薦型選抜が十一月出願、総合型選抜(旧AO入試)が九月出願となっており、本校では多くの生徒がこの二つの入試制度で受験をします。専門学校等においてもAO入試、推薦入試制度を利用する生徒が多くなります。一昨年度から、推薦入試においてもプレゼンテーション、口頭試問、教科・科目に関わるテストなど、学力を確認する評価を実施することが必須となりました。それらにしっかりと対応できるように事前の準備を行ってください。二年生も三学期になると進学補習や模試があります。それまでは授業を中心に基礎学力を身につけ、意欲的に学習に取り組んでください。

三年生は今後、七月「進路希望調査・三者面談」、八月「就職・進学出願先に関する会議」と続きます。出願先決定後は、内定・合格に向けて学科試験や面接等の受験対策に取り組まします。日常生活の努力も大切です。学校生活における挨拶やマナー等、様々なことが受験や将来につながっていることを意識して生活してください。このことは三年生だけでなく、一、二年生の皆さんにも当てはまります。

二 進路希望状況について

昨年度は、卒業生一四二名中、就職八五名、進学五七名で、就職率は60

%でした。また、県内就職率は74%でした。昨年度の特徴は、県内就職率が公務員を含めて85%と高かったこと、進学で大学・短大が専門学校を初めて上回り、54%となったことです。

今年度の三年生は六月に第二回目の進路希望調査を行いました。就職希望者は九三名(64%)、そのうち、県内就職希望者は六〇名(65%)です。地域未定の生徒もいますが、県外希望者が若干増加しています。一方、進学希望者は五三名(36%)で、昨年度卒業生の進学率と比べて4ポイント少なくなりました。大学・短大と専門学校の希望者はほぼ同数でした。

今後、就職希望者は求人票を見たり応募前職場見学に参加して、就職先を決定していきます。進学希望者は本校に來ている進学雑誌・募集要項を見たりオープンキャンパスに参加して、進学先を決定します。

三 一学期の進路活動

①公務員模試開始(四月十三日)

②三年進学補習説明会(五月十八日)

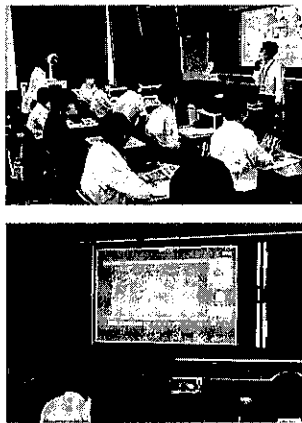
大学・短大等進学希望者
 総体後の六月から、三年生対象の進学補習が開始されました。大学・短大を目指す生徒が、基礎学力・実践力を身につけるため、毎日放課後懸命に取り組んでいます。

③企業説明会(五月十九日)

今年度も昨年度同様、企業側がHR教室に訪問・説明していただく方法で実施しました。全学年で実施し、仕事について学習しました。参加いただきました企業の方にはお世話になりました(後述に生徒アンケートを記載しています)。

【参加企業】

㈱出雲技研、出雲市役所、出雲土建
 ㈱、㈱出雲村田製作所、板倉重機㈱、岩崎建設㈱、イマックス㈱、カナツ技建工業㈱、山陰防災電機㈱、サン電子工業㈱、㈱ジエイ・エム・エス、㈱ジエイ・オー・フアーマ、島根島津㈱、島根電工㈱、㈱島根富士通、神州電気㈱、㈱ダイハツメタル、(一財)中国電気保安協会、㈱中電工、内藤鉄工㈱、㈱内藤組、ヒラタ精機㈱、㈱フクダ、㈱矢田製作所
 以上二五社

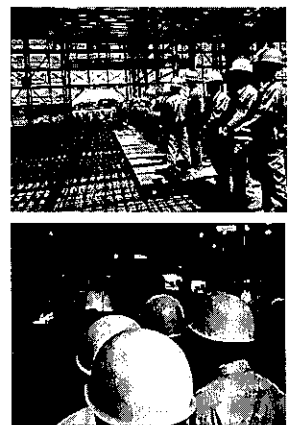


④三年県内企業見学(六月八日)

クラス単位の活動として、進路を考える最後の行事でした。工場や建設物を見学し、進路だけでなく、学校の学習内容に活かす活動となっています。

【見学企業先】

機械科 ㈱渡部製鋼所(㈱ハンナテックス、㈱ジエイ・オー・フアーマ)
 建築科 浜田港福井第二上屋建設工事、道の駅「いせ仁摩」
 電気科 ㈱ジエイ・オー・フアーマ、㈱ダイハツメタル
 電子機械科 日本コルマー㈱、パナソニックソーラーシステム製造
 ㈱、㈱ダイハツメタル
 以上十ヶ所



⑤一年基礎力診断テスト(六月十四日)

⑥二年職業適性検査(六月十四日)

⑦三年基礎力診断テスト(六月十五日)

⑧学校と企業の情報交換会

⑨出雲管工事業業組合

⑩七月 県電業協会、雲南地区

⑪七月 進学説明会(三年進学希望者)

⑫七月四日

進学に臨む生徒に向けて、進学的心情やスケジュール等について説明しました。

⑬二年県内企業見学(七月十三日)

⑭二年県内企業見学(七月十三日)

⑮二年県内企業見学(七月十三日)

⑯二年県内企業見学(七月十三日)

⑰二年県内企業見学(七月十三日)

⑱二年県内企業見学(七月十三日)

⑲二年県内企業見学(七月十三日)

⑳二年県内企業見学(七月十三日)

㉑二年県内企業見学(七月十三日)

㉒二年県内企業見学(七月十三日)

㉓二年県内企業見学(七月十三日)

㉔二年県内企業見学(七月十三日)

㉕二年県内企業見学(七月十三日)

㉖二年県内企業見学(七月十三日)

㉗二年県内企業見学(七月十三日)

四 二学期以降の取り組み

二学期以降は、三年生の就職・進学選考はもとより、一、二年生のキャリア教育活動も行われます。

①二年県外企業見学(九月八、九日)

②就職選考開始(九月十六日)

③一年就職ガイダンス(十月十九日)

④一年県内企業見学(十月二十六日)

⑤二年インターンシップ

⑥十一月八日(十日)

⑦一・二年公務員

⑧二年進学補習説明会(十二月七日)

⑨二年進学補習開始(二月一日)

⑩二年公務員模試(二月)

⑪二年作文模試(三月十四日)

⑫一、二年進路説明会(三月十七日)

一、二年生の皆さんも、学期ごとに進路希望調査を実施します。時間の取れる時期(夏休み等)に、進路について調べる時間をとりましょう。パンフレットを見たり、オープンキャンパスに参加したりして、意欲的に進学先の最新情報を取得しましょう。また、夏休みの課題にもしっかり取り組み、学力を向上させる努力も怠らないようにしてください。

企業説明会について

(三年前と比較して)

平成十九年度から始まった本会は、令和元年度の中止をはきみ、今回で十五回目となります。ここ二年间はコロナ禍で、生徒同士の交流や混雑を避けるため、企業の方がHR教室で説明していただく方法(HR方式)としました。一方、三年前までは、二、三年生が希望する企業ブースに赴き説明を聞きました(ブース方式)。一年生は今年度と同じHR方式をとっていました。企業数は三十社を超える年もあり、生徒が希望の企業を選択できることが特徴です。新型コロナウイルスが蔓延し始めた令和元年度は中止しましたが、三年生が進路先を決定する直前の行事で、どうしても開催したいという思いから、昨年度はHR方式をとり全学年で実施しました。一回二五分だけに来校される企業があることや、三年生にぜひ説明したい

という企業もあり、企業側の希望に答えられないという懸念事項があります。また、生徒が希望する企業の説明を聞くことができていないのかという心配もあります。しかし、学校側として生徒を掌握しやすさというメリットがあり、企業を知る機会として本会だけでなく、企業見学やインターンシップ、応募前職場見学等、高校生活三年間で多くの企業情報を収集してもらいたいと考えます。

今回、生徒アンケート結果をもとに、三年前のブース方式と比較してみました。

【今年度の結果】

集計結果を見ていくと、図1「説明時間は適当である」が70〜81%でした。掲載していませんが、「企業数三社は適当」と回答した生徒は8割程度いました。図2「進路選択・決定の参考になった」が80〜93%でした。

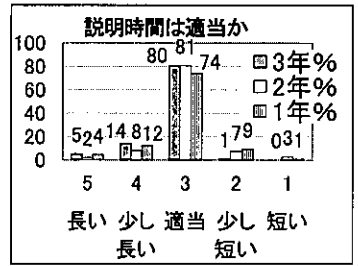


図1 説明時間 (R4)

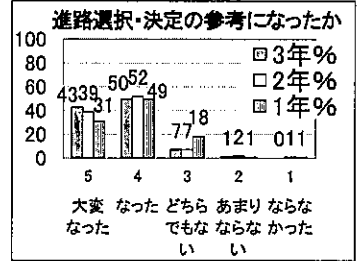


図2 進路の参考 (R4)

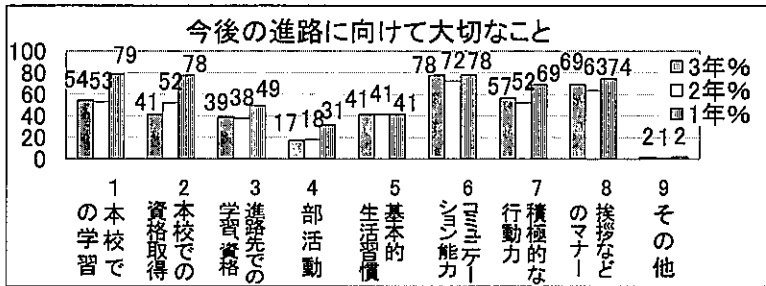


図4 今後の進路に向けて (R4)

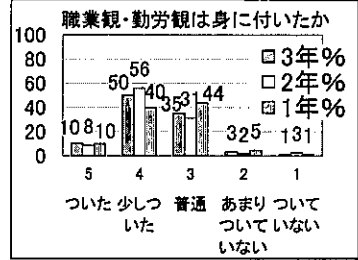


図3 職業観・勤労観 (R4)

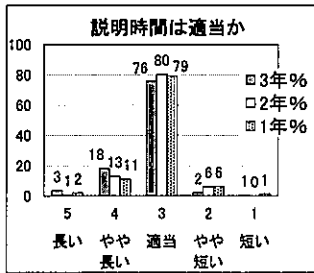


図5 説明時間 (R1)

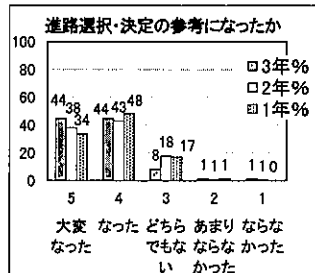


図6 進路の参考 (R1)

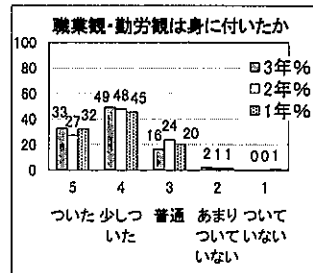


図7 職業観・勤労観 (R1)

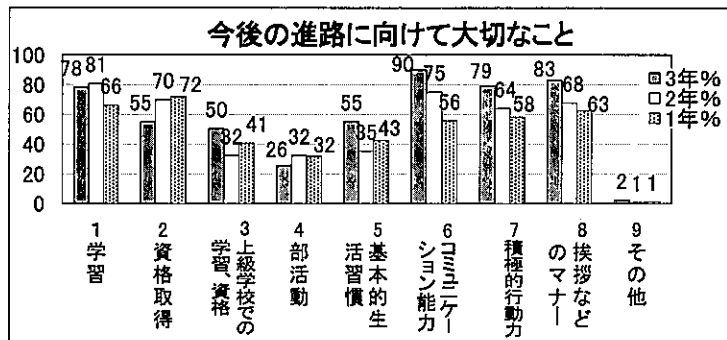


図8 今後の進路に向けて (R1)

二、三年生は一年生に比べて高く、工業高校で学習した成果が出ていると思われまふ。図3「職業観・勤労観が身についた」が50〜64%でした。若干、数字が低いのが気になります。図4の「今後の進路に向けて大切なこと」は、学年によって多少ばらつきがありますが、「コミュニケーション」、「マナー」、「本校の学習」と続きます。

同じ内容で三年前のブース方式と比較したものが、図5〜8です。図5、図6、図8は今年度の結果とそう変化はありませんが、図7については、三年前と減少していることがわかります。今年度の傾向は、昨年度にも表れており、原因としては、コロナによって生徒の仕事に対する意識が変化したこと、企業説明会の方式が変わったために職業に対する意識が変わったことが考えられます。一年生は、同じ方式で実施しているにもかかわらず、77%が50%に低下していますので、前者の影響ではないでしょうか。進学希望者も将来は仕事に従事するため、職業観や勤労観の育成が必要であることは言うまでもありません。コロナ禍で見学や訪問が減る中、早期から勤労意欲をもって学習に取り組んでほしいと思います。

職業観・勤労観とは

インターネット「違い比較辞典」によると、「職業観は職業に対して持っている考え方で、勤労観は働くことそのものに対して持っている考え方」と記載されています。すなわち、職業観は特定の職業に対する概念で、勤労観は仕事そのものの概念を表します。しかし、職業観について考えていくと、「何のためにその仕事をするのか」となり、さらに、「何のために働くか」という価値観に到達します。結局、勤労観と同じものとなります。従って、職業観と勤労観はセットで考えるもので、順番も表記のように表します。

職業観・勤労観とは、仕事に対する意識や態度を指し、働くことに対する価値観や責任感を含みます。これは、個人の成長や社会への貢献に重要な役割を果たします。特に、現代社会では、変化の激しい環境の中で生き残るために、職業観と勤労観をしっかりと身につけることが求められています。

先輩からひとこと

「分岐点」

片寄 真吾

三年生は進路決定の時期になりました。一・二年生に關しては一年後・二年後に進路決定の時がやってきます。まだ今は大丈夫だと思っていながら三年生の進路決定の時期になっています。今の頑張りが将来の進路実現につながると思い学校生活を過ごして欲しいと思います。

某プロサッカーチームのスカウト担当の人はこう言っておられます。

「一流の選手はチャンスが来る事を信じて意識高くトレーニングをし、チャンスをもつ。二流の選手はチャンスが来たら意識高くトレーニングをし、チャンスをもつ。三流の選手はチャンスが来たら意識高くトレーニングをし、チャンスが来たら意識高くトレーニングをし、チャンスをもつ。四流の選手はチャンスが来たら意識高くトレーニングをし、チャンスが来たら意識高くトレーニングをし、チャンスをもつ。」

みなさん今の自分にあてはめてみるとどうでしょうか。チャンスが来ると信じて今から準備している人が何人いるでしょうか。または、担任の先生との面談や企業見学を通してこれから頑張ると意識し始めた人は何人いるでしょうか。

以前「素敵な選TAXI」というドラマが放送されていました。このドラマは「人生にはいくつもの分岐点がある」というところから話が始まります。皆さんの高校生活にも様々な分岐点が存在していると思います。ドラマの中では失敗すれば「TAXI」に乗って過去に

もどつてやり直せますが、現実ではありえません。今から準備し、チャンスを見逃すことなく自分の進む道を選んでほしいと思います。

私たちはみなさんが進路を実現するための支援はできます。例えば、生徒面談や進路学習、学校生活でのアドバイス、宿題を出すのも、一つの支援です。しかし、実際にその進路学習やアドバイス、宿題をどのように自分で消化し自分に生かすかはみなさん次第です。

日々の学校生活を来たるチャンスに備え、自分のためになると思つて本気で頑張れる生徒になってほしいです。そしてそのように成長できるように、日々みなさんと接し、見守っていきたくと思っています。みなさんの高校生活は、やるべきこと、そしてやりたいこと、やらなければならないことにあふれているはずで

明日にも大事な分岐点が来るかもしれない。そのときに頑張るのではありません。人生の分岐点がいっつも来てもいいように今のうちに高校生活を充実したものにしましょう。そうすれば、自分にとって最高の進路実現ができるはずで。みなさんが分岐点に立ったときに自信をもつて選択できるように願っています。

将来を見据える

藤原 壮

みなさんは将来の夢や目標を持って生きていますか？その目標のための手立てはできていますか？何気なく日々を過

ごしていませんか？

この高校生活の三年間は、進路選択において最も真剣に向き合わなければならぬ時期だと私は思います。

私が教員を目指し始めたのは高校二年生のときでした。高校生の頃、科の先生や部活の先生に挨拶や返事、物事に一生懸命に取り組む姿勢など、「当たり前だが大切なこと」を厳しくご指導して頂きました。その先生方のご指導のおかげで、「当たり前だが大切なこと」が卒業後の自分を何度も救ってくれるものになりました。

私が伝えたいことは二つあります。

一つ目は「挨拶や返事を大切にすること」です。私は生徒に挨拶や返事の指導をします。なぜ大切にするかというと私は挨拶や返事のない場に立ち会ったことがないからです。どんな場面でも挨拶と返事は必要で、人と人をつなぐ大切なコミュニケーションであると考えています。どんな進路先へ行ったとしても、「挨拶と返事」が存在しており、それができるようになっていると、必ず皆さんの強い武器になってくれるはずで

二つ目は「三年間の高校生活の全てを行動・言動を意味のあるものにして欲しい」ということです。つまり考えて行動して欲しいと言っています。自分

の行動や言動に意味を持つことで何気ない行動や言動が無くなり、全てに目的が生まれます。目的が生まれると今、するべきことに責任が生まれます。このようなことを目頃から行うことで自分にとっての夢ができたとき、またそれを達成するための自分なりの計画が見えてくるはずで。日頃から何事にも計画性を持って学校生活を送っていきましょう。

この三年間は皆さんに平等に与えられた三年間の高校生活です。この長いようであつという間のこの三年間をどう過ごすかは自分次第です。苦労や努力の分だけ皆さんの強みになってくれます。また三年間考え抜いて決断した「進路」はどんな道であろうと間違ひなく素晴らしいものになるはずで。三年生はあと少し、二年生はあと一年あまり、一年生は二年あまり、それぞれが将来を見据えて真剣に今と向き合つて下さい。応援しています。

編集後記

はじめに、進路情報を発行するにあたりご寄稿いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。さて、この進路情報には進路に関する情報はもちろんのこと、諸先輩方のこれまでに歩んでこられた何十年という人生のエキスを詰まっています。これからのみなさんの進路選択や人生にぜひ活かしてください。

(進路指導部 福岡嘉寿)